

リン資源リサイクル推進協議会 平成 23 年度事業報告

リンは、植物や動物の生体を構成する主要な元素であるとともに、生命活動の維持に必要なエネルギーの獲得に関する重要な機能を担っているなど、欠くことのできない必須元素であり、化学肥料、工業製品、食品添加物等に、大量にかつ幅広く利用されている。

一方、原料となるリン鉱石は限られた国に偏在しており、このままリンの需要量が増加傾向で推移すれば、今世紀の後半には経済的に採掘可能なリン鉱石が枯渇するというようなシナリオも発表されている。また、近年の世界的な食料需要の増加やバイオ燃料生産等によるリン酸質肥料の需要増大を一因とするリン鉱石価格の急騰等、国内で消費するリンの全量を海外からの輸入に頼っているわが国においては、資源の安定供給面からも不安材料となっている。

このような状況に対処するため、わが国は国内で使用したリンの回収・再利用や、未利用リン資源の利用技術を開発する必要に迫られている。

リン資源リサイクル推進協議会は、このような背景のもと、都市下水、含リン廃棄物、製鋼スラグ等の未利用リン資源からのリン回収技術や農業及び工業分野における省リン技術の開発促進、工業用リン酸や黄リン製造技術の革新等の技術の検討を行い、リン資源の回収とリサイクルに関する事業化の促進を行うとともに、リンの回収と再利用を円滑に進めるための事業者間連携や再生リンの利用を促進するための施策の提言等について、産学官の幅広い関係者が一体となって、行政の縦割りや民間企業間の壁を越えたオールジャパンのレベルで戦略的かつ総合的な検討を行い、もってリン資源に関する持続可能な循環型社会の構築と地球環境保全に寄与することを目的として、平成 20 年 12 月 18 日に設立した。

平成 20 年度は、設立総会及び記念講演会、ホームページ開設やメールニュースの配信等により協議会としての活動を開始し、NEEDO 等関係機関との連携や会員等への支援業務等の事業活動、リン資源リサイクルの実現に向けた課題や方策等の検討を行った。

平成 21 年度からは、主として回収から利用までのリン資源リサイクル実現に向けた取組を推進している。具体的には、多様な回収技術や利用技術、関係省庁等それぞれの取組について情報提供と意見交換を行い、関係事業者間のマッチングや関係省庁・機関との連携強化を図ることを目的としたシンポジウムを毎年 2 回開催するほか、先進的なリン資源リサイクル事例の視察や、リン資源のリサイクルに関する活動について、その一層の推進及びそれに従事する者の一層の意欲向上に資するための功績者表彰を行った。

平成 23 年度は、引き続き回収から利用までのリン資源リサイクル実現に向けた取組を一層推進するため、例年開催しているシンポジウム、先進事例視察、功績者表彰、情報の提供と共有等に加えて相談・支援業務を充実するとともに、会員の活動に対する後援・協賛等を実施した。また、わが国におけるリン資源の持続的な確保と環境管理に関する国家戦略を立案するための学際・総合的プラットフォームとして、「リン資源の確保と管理に関する産官学戦略会議」を新たに立ち上げ、想定される危機シナリオに対する問題解決のための戦略を明らかにして、国際的な枠組み作りにも対応した政策提言を行うための検討を開始した。

1. 会員の状況

平成 23 年度末における会員数は、次のとおりである。

会員区分	平成 20 年 12 月 18 日 (設立総会)	平成 20 年度末	平成 21 年度末	平成 22 年度末	平成 23 年度末	増減 (前年度比)
個人会員	36	46	58	66	65	-1(増 3 減 4)
団体・法人会員	41	47	62	66	69	3(増 5 減 2)
合計	77	93	120	132	134	2(増 8 減 6)

2. 会務の運営

(1) 総会 (1 回開催)

1) 第 4 回総会

開催日：平成 23 年 7 月 28 日 (木)

(第 5 回シンポジウムと合わせて開催)

場 所：東京ビッグサイト会議棟 (東京都江東区)

出席者：関係省庁来賓、会員、取材

合計 88 名 (来賓 2 名、会員 86 名 (委任・事務局を含む))

内 容：平成 22 年度事業報告及び決算、平成 23 年度事業計画及び予算、役員の選任、平成 23 年度リン資源リサイクル推進功績者表彰、その他

(2) 幹事会 (3 回開催)

1) 第 7 回幹事会 (平成 23 年度第 1 回)

開催日：平成 23 年 5 月 24 日 (火)

場 所：日本肥料アンモニア協会 会議室 (東京都千代田区)

出席者：役員、事務局、オブザーバー (関係省庁)

合計 20 名 (本人 8 名、委任 2 名、代理 2 名、オブザーバー 5 名、事務局 3 名)

内 容：第 4 回総会議案 (平成 22 年度事業報告及び決算、平成 23 年度事業計画及び予算、役員の選任、その他) 第 5 回シンポジウム、平成 23 年度功績者表彰、第 2 回事例視察、会員動向及び執行状況報告、その他

2) 第 8 回幹事会 (平成 23 年度第 2 回)

開催日：平成 23 年 10 月 6 日 (木)

場 所：日本肥料アンモニア協会 会議室 (東京都千代田区)

出席者：役員、事務局、オブザーバー (関係省庁)

合計 17 名 (本人 9 名、委任 1 名、代理 1 名、オブザーバー 4 名、事務局 3 名)

内 容：第 2 回事例視察、第 6 回シンポジウム、サーモフォス社との意見交換会、リン資源の確保および管理に関する産官学会議 (仮称) 会員動向及び執行状況報告、その他

3) 第9回幹事会(平成23年度第3回)

開催日:平成24年3月1日(木)

場 所:日本肥料アンモニア協会 会議室(東京都千代田区)

出席者:役員、事務局、オブザーバー(関係省庁)

合計15名(本人8名、委任2名、代理2名、オブザーバー3名、事務局2名)

内 容:平成23年度事業執行状況、平成24年度事業計画及び予算、民間基金応募状況、リン資源の確保と管理に関する産官学戦略会議、会員動向報告、その他

4) 文書審議(平成23年度第1回)

開催日:平成23年7月4日(月)

場 所:郵送文書及び電子メール

出席者:合計10名

内 容:平成23年度 リン資源リサイクル推進功績者表彰の審査

(3) 企画委員会(1回開催)

開催日:平成23年9月14日(金)

場 所:社団法人日本有機資源協会 会議室(東京都千代田区)

出席者:委員4名、事務局2名、合計6名

内 容:第2回事例視察、第6回シンポジウム、サーモフォス社との意見交換会、リン資源の確保および管理に関する産官学会議(仮称)、その他

(4) 監査会

1) 平成22年度事業監査

開催日:平成23年5月24日(火)

場 所:社団法人日本有機資源協会 会議室(東京都中央区)

出席者:監事2名、事務局2名、合計4名

内 容:平成22年度事業監査

3. 事業活動

(1) 技術調査事業

本事業は、リン資源リサイクルに関する技術や関係機関の活動状況、国際的な動向等の情報収集及び関係機関との情報交換等による連携活動により、リン資源リサイクルに関する調査・検討を行うものであり、平成23年度は以下の事業を実施した。

1) サーモフォス社との意見交換会

開催日:平成23年11月18日(金)

場 所:日本肥料アンモニア協会 会議室(東京都千代田区)

出席者:サーモフォス社、関係省庁、役員、企画委員、シンポジウム講師、事務局

合計:11名

内 容:サーモフォス社のリン資源リサイクル技術・取組やヨーロッパにおけるリン資源リサイクルの状況について概要説明、サーモフォス社によるわが国におけるリン資源リサイクルに関する取組についてのヒアリング、回収リンからの黄リン製造に関する意見交換

2) 国際リン・ガバナンス研究会との連携

国際リン・ガバナンス研究会に参加し、本協議会の活動状況の発信や意見交換、情報収集等を行い、情報の共有化や活動の効率化を図った。

第1回国際リン・ガバナンス研究会への出席

開催日：平成23年6月30日(木)

場 所：東京大学山上会館(東京都文京区)

出席者：役員、事務局

内 容：リン資源に関する国際的動向、リン資源リサイクル推進協議会の関心とこれまでの取組、その他

3) 水の安全保障戦略機構との連携

チームとして参画している水の安全保障戦略機構の委員会等(執行審議会、基本戦略委員会、技術普及委員会、分野連携委員会等)に参加し情報収集を行うとともに、必要に応じて本協議会の活動状況の発信や提言、意見交換等を行った。

第8回基本戦略委員会への出席

開催日：平成23年4月8日(金)

場 所：中央大学理工学部後楽園キャンパス3号館10階大会議室(東京都文京区)

出席者：事務局

内 容：「チーム水・日本」の活動報告、「低炭素社会における流域水管理のあり方」に関する提言、その他

4) その他関係機関等との連携

リン資源リサイクルに関する関係省庁や研究機関、関係機関等の情報を集約し、ホームページ等で共有化や活動の効率化を図った。

(2) 普及啓発事業

本事業は、リン資源リサイクル推進のための情報提供や情報交換等の普及啓発活動を行うものであり、平成23年度は以下の事業を実施した。

1) リン資源リサイクルシンポジウム

第5回

開催日：平成23年7月28日(木)

場 所：東京ビッグサイト会議棟(東京都江東区)
(第4回総会と合わせて開催)

出席者：関係省庁来賓、会員、一般、取材

合計 シンポジウム：165名、意見交換・交流会：61名

内 容：リン資源リサイクルに関する国内外の動向や各種技術、事業実施例等について、学識者、関係機関、民間企業等からの発表及び報告と意見交換

第6回

開催日：平成23年11月17日（木）

場 所：主婦会館プラザエフ（東京都千代田区）

出席者：関係省庁来賓、会員、一般、取材

合計 シンポジウム：111名、意見交換・交流会：44名

内 容：海外および国内におけるリン資源リサイクルに関する取組について、関係機関、地方自治体、民間企業等からの発表及び報告と意見交換を行い、わが国におけるリン資源の確保および管理について討議

2) リン資源の確保と管理に関する産官学戦略会議（2回開催）

わが国におけるリン資源の持続的な確保と環境管理に関する国家戦略を立案するための学際・総合的プラットフォームとして、想定される危機シナリオに対する問題解決のための戦略を明らかにして、国際的な枠組み作りにも対応した政策提言を行うための検討を行った。

第1回

開催日：平成24年1月19日（木）

場 所：日本肥料アンモニア協会 会議室（東京都千代田区）

出席者：役員、学識者、オブザーバー（関係省庁、関係機関等）、事務局

合計28名（役員8名、学識者3名、話題提供3名、関係省庁5名、関係機関8名、事務局1名）

内 容：戦略会議開催の目的と意義、リン資源枯渇の最悪のシナリオをめぐる話題提供（3題）、今後想定されるリン資源枯渇問題の最悪のシナリオ、戦略会議の進め方、その他

第2回

開催日：平成24年3月1日（木）

場 所：日本肥料アンモニア協会 会議室（東京都千代田区）

出席者：役員、学識者、オブザーバー（関係省庁、関係機関等）、事務局

合計24名（役員9名、学識者1名、話題提供3名、関係省庁4名、関係機関6名、事務局1名）

内 容：リン資源枯渇の最悪のシナリオをめぐる話題提供（3題）、今後想定されるリン資源枯渇問題の最悪のシナリオ、その他

3) リン資源リサイクル事例視察

第2回

開催日：平成23年11月7日（月）

場 所：秋田県仙北市環境保全センター（秋田県仙北市）

出席者：合計18名（会員・事務局：13名、一般：5名）

内 容：汚泥再生処理センター（し尿処理施設）におけるリン回収事例等

4) 東京都下水道局リン回収共同研究施設視察

開催日：平成24年1月19日（木）

場 所：東京都下水道局砂町水再生センター（東京都江東区）

出席者：合計9名（関係省庁、学識者、第1回戦略会議参加者、事務局）

内 容：東京都下水道局におけるリン回収実証試験について

5) リン資源リサイクル推進功績者表彰

リン資源リサイクルについて、その一層の推進及び従事する会員等の一層の意欲向上に資するため、リン資源リサイクルに関して優れた功績をあげた会員等に対する表彰を行った。

平成 23 年度リン資源リサイクル推進功績者：仙北市環境保全センター

6) 書籍「リン資源枯渇危機とはなにか」の販売

リン資源を巡る現状を踏まえ、枯渇の危機にあるリン資源の重要性やリサイクルの必要性に等ついて、広く一般の方に普及啓発を行うことを目的として、シンポジウム等を通じて書籍「リン資源枯渇危機とはなにか」の販売を行った。

販売数：83 冊

7) 協議会メールニュースの配信

本協議会活動（会員動向、シンポジウム等の開催案内、事務連絡等）、リン資源リサイクルに係る関係省庁の施策や公募等の情報、関係機関の活動、リン資源リサイクルに関する会員、新聞、情報誌、WEB 等からの情報について、電子メールによる提供と共有を行った。

平成 23 年度は、合計 14 回（Vol.54～Vol.67、書籍案内）のメールニュースを配信した。

8) ホームページの運営

協議会事務局である社団法人日本有機資源協会ホームページ内の協議会専用ページにおいて、入会案内、協議会案内、会員名簿、行事・イベント等の、本協議会活動の広報を主体としたホームページの運営を行った。

9) その他

報道関係者、一般等からの問い合わせ（協議会の概要や活動、会員等の紹介、入会手続き、シンポジウム資料購入、等）への対応を行った。

平成 23 年度の主な対応状況は次のとおりである。

- ・NHK 報道局（リン資源リサイクルに関する番組企画 [リン資源、リサイクルの現状、国内外の動向等] について）
- ・日刊工業新聞（協議会の設立経緯や活動概要、リン資源リサイクルの最新動向等について）

(3) 業務支援事業

本事業は、会員等からのリン資源リサイクル推進に関する種々の要請、要望あるいは問合せ等を受けて、その業務を合理的かつ円滑に執行するための支援を行うものであり、平成 23 年度は以下の事業を実施した。

1) リン資源リサイクルに関する相談・支援

会員等が、リン資源リサイクルの事業化や研究・開発等を推進する際の様々な課題や知見等について、随時、要請や問い合わせを受けて、情報及び資料の提供、面談指導、役職員等の派遣等を行った。

平成 23 年度の主な支援内容は次のとおりである。

- ・会員等の紹介（講師、回収リン肥料サンプル提供先、ナイロン樹脂分解残さ引取先、調査ヒアリング先、資料提供先、東日本大震災で被災したリン鉱石の引取先、リン回収のための原料供給先、回収リン技術の評価機関、等）
- ・リン資源リサイクル事業（リン資源リサイクルにおける廃棄物処理法の取扱い、使用済みリン酸の有効活用、回収リン資源の販売先や流通ルート、リン回収製品の単価、鶏ふん焼却灰の活用、等）に関する情報提供及び面談指導
- ・会員等が開催するシンポジウム、講演会等の紹介、講師派遣、役職員の出席

2) リン資源リサイクル推進活動の後援・協賛

会員等が行うリン資源リサイクル推進に関する活動に対して、会員への優遇の有無等その内容に応じて、幹事会による討議を経て、経費や名義による後援、協賛等の支援を行った。

平成 23 年度協賛事業：

大阪大学・アーヘン工科大学、日独共同大学院プログラムシンポジウム

「Biotechnology and Chemistry for Green Growth」

（グリーン成長のためのバイオテクノロジー及びケミストリー）

開催日：平成 24 年 3 月 13 日（火）

場 所：千里ライフサイエンスセンター ライフホール（大阪府豊中市）

出席者：役員、会員、事務局

内 容：産業社会のグリーン成長へのバイオテクノロジー及びケミストリーの貢献について、リン資源リサイクルなど最先端の話題を提供するとともに、国際的な視野から議論。第 6 回リン資源リサイクルシンポジウムの講師であるウィレム・スキッパー氏（サーモフォス社）を招聘。

3) その他

関係省庁や連携機関、会員等からの問い合わせへの対応を行った。